



図書館報

第 248 (25-6) 号 (2026.3)

横浜女子短期大学図書館

TEL 045-835-8115 / FAX 045-835-8118

E-mail lib@yokotan.ac.jp

2年生から後輩のみなさんへ

学生生活の中で、普段から図書館をよく利用してくれた2年生に課題や実習準備のための活用法を教えてくださいました。2年間で身に着けた図書館の使い方や楽しみ方は、卒業後も役に立って力になることでしょう。卒業間際の忙しい中、原稿をありがとうございました。

2年間の図書館利用を通して

A. S.

私はこの2年間、学習や実習の準備のために図書館を利用してきました。図書館はいつも静かで落ち着いた環境が整っており、集中して課題やテスト勉強に取り組むことができました。図書館には日誌や指導案の書き方、子どもとの適切な関わり方などについて詳しく書かれている本がたくさんあるため、実習の際にはとても役に立ちました。多くの分野の本が揃っているのも、新しい知識や興味に出会うきっかけとなり、私にとって大切な場所だったと感じています。みなさんもぜひ図書館をたくさん利用してみてください。



ワクワクする図書館

S. K.

この2年間で様々な場面で図書館を利用したのではないかと感じています。特に実習前は絵本を借りる機会が多く、貸出冊数も20冊まで増えるのでありがたかったです。また、指導案やレポートで悩んだ際、保育の指導書を活用したり、自分の興味のある小説を借りて読むことができ、良かったです。約13万冊もあるので借りる本に悩んでしまいますが、見に行くだけでもワクワク感があるのでぜひ図書館を利用してください。



実習の準備は図書館へ

G. T. T. F

実習前には、日誌をどのように書けばいいのか、どんな手遊びや絵本を準備すればいいのかなど、さまざまな悩みを抱えると思います。そんな時に、是非おすすめしたい場所が図書館です。

私は実習の前後や課題に取り組むとき、そして期末試験の期間に、いつも図書館を利用していました。特に実習前には、日誌の書き方や絵本、手遊びに関する本をたくさん借りて準備しました。そのおかげで大きな安心感をもって実習に取り組むことができました。また、期末試験の時期には、静かで落ち着いた図書館の雰囲気の中で、集中して勉強することができました。

この2年間の短大生活の中で私が最もお世話になり、愛用してきた場所は図書館です。皆さんもぜひ図書館を積極的に活用し、有意義な実習を経験し、充実した保育科の学生生活を送ってください。



ネタの宝庫

H. A.

実習が近づくにつれて「絵本何にしよう？」や「部分実習どうしよう」と考えることが多くありました。そんな時、図書館に行けば実習先の先生も読んだことがない様な絵本や、知らなかったという遊びが載っている本がたくさんあり、特に責任実習や部分実習が必ずある2年次の実習ではネタの収集に困ることがなく、実習の助けになりました。



ほかにも友達と絵本コーナーで自分が幼い頃に持っていたり、読んでいた絵本を見つけて思い出話をしたりと、幼少期を振り返ることができる場所でもあり、私にとってとても楽しい空間でした。

卒業後のご利用＊お待ちしております

卒業後も在学中と同じように図書館を利用できます。使い慣れた図書館にまた足を運んでください。

◆利用の仕方◆

1. 本館受付で「図書館利用」の手続きをして来てください。
2. ライブラリーカードを持参してください（更新手続きをします）。
3. 利用時間は平日 9:00～17:00です。必ずホームページで最新情報を確認してください。

図書館から 卒業を迎えるみなさんへ

『こわい目にあったアライグマくん』（マーガレット・M・ホームズ）

図書館長 スティーヴン・トムソン

新卒業生や進級生に紹介したい絵本は『こわい目にあったアライグマくん』です。絵本はさまざまな目的をもって作成されますが、この一冊は子どもの心の傷（トラウマ）の心理教育を目的とした内容です。アライグマくんは、ストーリーの中では特定されていない「こわい目」（体験）に遭い、その出来事を誰にも話さず、その内容や関連する感情（恐怖など）を考えないようにして、その記憶を心の奥にしまい込もうとします。

しかし、時間が経つにつれて、アライグマくんは理由の分からないいら立ちや悲しさを感じたり、思い出さないようにするために場に合わない言動をとったり、身体的な苦痛を経験したり、怒りっぽくなったり、友だちをいじめたりするようになります。どうすればよいのか分からないまま過ごしていたアライグマくんは、やがて学校のカウンセラーと出会います。そして、自身の努力とカウンセラーの支えによって、心の傷は少しずつ癒されていきます。

子どもが「こわい目」（虐待、面前 DV、事故、自然災害など）を体験した場合、その多くはアライグマくんと同様に、その出来事を心の奥にしまい込もうとします。そして同じように、身体面・心理面・社会面に深い影響を受けることがあります。この絵本は、「こわい目」を体験した子どもが抱える悩みは「おかしい」ことではなく、「誰にでも起こり得る」ものであること、そして信頼できる大人や先生に話を聴いてもらうことの大切さを伝えています。年少児童を対象とした絵本であり、心に傷を抱えている子どもの支援方法についての助言も付録に記載されています。保育所や児童養護施設などにぜひ置きたい一冊です。



（誠信書房）

『のはらうた』（工藤直子）

原 真由美

みなさんは国語の教科書で「おれはかまきり」という詩を読んだことがありますか。「おう なつだぜ おれは げんきだぜ」で始まるこの詩をつくった工藤直子さんの詩集『のはらうた』が私は大好きです。手のひらほどの小さな本に「おれはかまきり」のかまきりりゅうじをはじめ、すみれほのか、かたつむりでんきち、こぐまきょうこなど、野原の仲間と作った詩が沢山つまっています。詩集のいいところは小説と違って、好きな時に好きなページをめくって読める手軽さです。卒業後しばらく環境に慣れることに精一杯で忙しいみなさんの息抜きにぴったりの本です。動物や虫、風などの小さな声を聴いて作られた短くて可愛い詩は、疲れた時に読むと何より元気が出ます。

保育の現場に出てアイデアが欲しい時、気分転換をしたい時、いつでもまた利用してください。学生時代とはまた違った目を持てるようになって、様々な本と出会えると思います。

（童話屋）

『いま、会いにゆきます』（市川拓司）

宗 梨紗

2004年に映画化された小説。雨の季節に、巧と息子の佑司の目の前に亡くなったはずの妻（澪）が現れます。澪は生前の記憶をなくしており、二人は亡くなったことを秘密にして生活を始めます。

亡くなった人と再会できるのは嬉しいようで、いずれくる別れを予感している切なさがあり、澪がいる何気ない日々の幸せを大切にしようとする二人の姿に、心が打たれます。小説の最後に澪がなぜ記憶を失っているのかが明らかになるのですが、その理由を知ると、澪の真つぐな愛情と覚悟、そして変えられない運命に虚しさを感じました。

作中の「我々は生きていくよ。どれだけ別れを繰り返しても、どれだけ遠い場所に流されても」（p.350）という言葉に、様々な別れを経験しながらも自分の人生を生きていく逞しさと優しさを、教えられるようでした。

（小学館）



❀ 社会に出る前に おすすめの本 ❀

いよいよ社会へ飛び立つ2年生のみなさん、今の時期、期待と不安が入り混じった複雑な気持ちを抱えている人も多いでしょう。社会人の仲間入りをする前に読んでおくといい本を紹介します。本のおりには上手くいかないかもしれませんが、少しでも不安が和らぐと思います。

『はたらくってなんだ?』村山昇文 日本能率協会マネジメントセンター 2024

『働く世界のしくみとルール』小西康之著 有斐閣 2024

『働く女性に贈る27通の手紙』小手鞠るい・望月衿子著 産業編集センター 2018

『新人保育者が身につけたい社会人基礎スキル』谷口真紀著 中央法規出版 2023

『先輩が教えてくれる!新人保育士のきほん』中野悠人・山下智子著 翔泳社 2016

『ユーキャンのまんが保育者1年目の教科書』rikko漫画 ユーキャン学び出版 2017

★開館時間など日程は掲示、ホームページのカレンダーで確認してください。

後記

2年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。実習を終えるたびに自信がつき、どんどん成長している姿がとても印象的でした。短大生活で学んだことは必ず糧になります。卒業後も図書館へ気軽に遊びにきてくださいね。皆様のご活躍をお祈りしております。

（宗）